

中野忠教授略歴・著作目録

略歴

- 1943年 1月 東京四谷区に生まれる
1961年 3月 鳥根県立松江高等学校卒業
1965年 3月 慶應義塾大学経済学部卒業
1969年 3月 慶應義塾大学大学院経済学研究科修士課程修了
1972年 3月 同大学院経済学研究科博士後期課程退学
1972年 4月 財団法人世界経済調査会研究員 (1973年3月まで)
1973年 4月 大阪学院大学経済学部講師
1976年 4月 同大学同学部助教授
1991年10月 同大学同学部教授 (1993年3月まで)
1993年 4月 早稲田大学社会科学部教授
1996年 3月 博士 (経済学) 慶應義塾大学 学位取得
2003年 4月 慶應義塾大学経済学部非常勤講師 (2006年3月まで)
2004年 9月 東北大学経済学部非常勤講師 (集中講義)
2006年 9月 社会科学総合学術院社会科学研究所教務主任 (2008年9月まで)
2009年 4月 比較都市史研究会幹事
2010年 7月 早稲田大学評議員 (2013年3月まで)

著作目録

著書 (単著)

- 1995年 2月 『イギリス近世都市の展開：社会経済史的研究』 創文社
2000年 3月 『前工業化ヨーロッパの都市と農村：社会史の領域』 成文堂

共著・分担執筆

- 1995年 9月 「近代化への道」 (岡田泰男編著『西洋経済史』 八千代出版)
1999年 5月 「ロンドンの徒弟暴動一六六八年—民衆文化の一齣」 (中村勝己編著『歴史のなかの現代：西洋・アジア・日本』 ミネルヴァ書房)
1999年 4月 「王政復古期以後のロンドン社会」 (イギリス都市・農村共同体研究会編『巨大都市ロンドンの勃興』 刀水書房)
2004年 3月 「王政復古期のロンドン市民」 (イギリス都市・農村共同体研究会・

東北大学経済史・経営史研究会編『イギリス都市史研究：都市と地域』日本経済評論社)

2006年12月「慈善と実用」(佐久間弘展ほか編『教育の社会史』知泉書館)

2008年3月「移動する貧民たち」(鈴木健夫編『地域間の歴史世界：移動・衝突・融合』早稲田大学出版部)

2012年5月「18世紀都市論の射程」(中野忠ほか編『一八世紀イギリスの都市空間を探る：「都市ルネサンス」論再考』刀水書房)

2012年6月「公共圏：近世イギリスの事例から」(社会経済史学会編『社会経済史学の課題と展望』有斐閣)

論文・研究ノート

1972年3月「イングランド北東部解散修道院の土地処分」『三田学会雑誌』65巻6号、32-64頁

1973年3月「人口と経済」『世界経済』18巻3号、11-31頁

1974年3月「イギリス初期石炭産業の諸側面—北東部の場合—」『大阪学院大学論集』23号、221-56頁

1974年3月、8月「ケマリスト・トルコの経済発展 1923-50年(上)(下)」『世界経済』19巻3号、19-45頁；8号、11-35頁

1976年4月、7月「沿海都市ニューカスルの取引動向 1330-1550(上)(下)」『大阪学院大学商経論叢』2巻1号、27-39頁；2号、57-72頁

1978年4月「中世末期ニューカスルにおける富と人口の分布」『大阪学院大学商経論叢』4巻1号、47-75頁

1979年4月「中世都市ニューカスルの市長と代官」『大阪学院大学商経論叢』5巻1号、32-64頁

1980年1月「中世末期イギリスの都市紛争」『大阪学院大学商経論叢』5巻4号、49-58頁

1981年4月「中世都市ニューカスルの市政と制度」『大阪学院大学商経論叢』7巻1号、37-58頁

1983年4月、7月「クラフト、市民、共同体—中世末の一辺境都市(上)(下)」『大阪学院大学商経論叢』9巻1号、13-30頁；2号、15-43頁

1983年1月「中世都市ニューカスル寡頭支配の中世的起源」『大阪学院大学商経論叢』8巻4号、312-53頁

1986年12月「近世イギリス地方都市の会計簿と財政」『比較都市史研究』5巻2号

1987年10月「エリザベス朝ニューカスルの都市会計簿を巡って」『大阪学院大学商経論叢』12巻4号

1988年12月「イギリス前工業都市における居住パターン」『大阪学院大学経済

論集』2巻3号

- 1988年8月「近世社会経済史資料としての遺産目録」『大阪学院大学経済論集』2巻5号、105-41頁
- 1990年4月「近世イギリス地方都市の取引き動向」『大阪学院大学経済論集』4巻1号、1-72頁
- 1990年9月「イギリス近世都市の財政構造」『社会経済史学』56巻3号、1-33頁
- 1990年12月「近世ニューカスルの職業構造と社会階層」『比較都市史研究』9巻2号
- 1990年12月、1991年4月「イギリス近世地方都市における疫病と飢饉（上）（下）」『大阪学院大学経済論集』4巻3号、1-34頁；5巻1号
- 1992年8月「イギリス近世都市の危機と安定」『大阪学院大学経済論集』6巻1号、39-80頁
- 1994年10月「近世イギリスの徒弟制—最近の研究動向から」『早稲田社会科学研究』49号、67-107頁
- 1995年3月「近世都市における「子供」の埋葬比率」『早稲田社会科学研究』50号、143-66頁
- 1996年3月「イギリス近世都市の寡婦たち：世帯主、性比、再婚」『早稲田社会科学研究』52号、19-48頁
- 1999年3月「近世ロンドンの市民と〈自由〉」『アジア太平洋研究センター研究シリーズ』42巻、119-36頁
- 2000年3月「区審問記録：近世ロンドンの地域社会に関する一資料」『早稲田人文自然科学研究』57号、27-61頁
- 2001年1月「近世ロンドンの都市財政—1643/4年度会計簿の分析から」『早稲田社会科学研究』1巻2号、9-34頁
- 2002年3月「王政復古期ロンドンの都市財政に関する研究」（文部科学省科学研究費報告書）
- 2003年3月「17世紀末イギリスの課税記録」（共著）『早稲田社会科学研究』3巻3号、1-30頁
- 2004年7月「定住法関連資料と18世紀イギリス農村社会」『早稲田社会科学研究』5巻1号、143-60頁
- 2004年12月「近世ロンドンの行政区をめぐる資料：区審問条項」『早稲田社会科学研究』5巻2号、53-65頁
- 2005年3月「18世紀中葉ウェストミンスター貧民の移動をめぐる：移送命令書と尋問書の予備的分析」『早稲田社会科学研究』5巻3号、1-21頁
- 2006年5月「近世ロンドンにおける移動と貧困：ウェストミンスター貧民尋問書の分析」（文部科学省科学研究費報告書）

- 2007年3月「王政復古期以後のロンドンにおける市民的社交圏：コーヒーハウスをめぐる最近の研究から」『早稲田社会科学総合研究』7巻3号、39-61頁
- 2008年12月「馬車と鹿肉：近世ロンドンにおける社交世界の展開」『早稲田社会科学総合研究』9巻2号、1-29頁
- 2009年3月「寄留人、間借り人、下宿人：近世ロンドンの住宅事情の一斑」『早稲田社会科学総合研究』9巻3号、1-34頁
- 2010年3月「イギリス近世都市における移動、役職、地域社会：ロンドンの事例から」『早稲田社会科学総合研究』10巻3号、1-22頁
- 2010年7月「トルミン・スミスとロンドンの自由：イギリス地方自治の水脈」『早稲田社会科学総合研究』11巻1号、87-104頁
- 2011年3月、2012年7月「近世ロンドンの地域社会と役職制度：聖ダンスタン教区の事例（上）（下）」『早稲田社会科学総合研究』11巻3号、17-42頁；13巻1号、73-102頁
- 2011年6月「商人の「共和国」：近世ロンドンの役職と役職忌避」『比較都市史研究』30巻1号、45-62頁
- 2013年3月「近世ロンドンの転入住民名簿：役職と移動に関する一資料」『早稲田社会科学総合研究』13巻3号、63-78頁

書評・紹介・学会動向・資料・その他

- 1970年11月（書評）「ドレイク著『工業化における人口』」『社会経済史学』36巻4号、381-84頁
- 1972年7月（書評・動向）「ホーク著『イギリス鉄道と経済成長』」『世界経済』17巻7号、34-50頁
- 1973年1月（書評・動向）「ベロック著『産業革命と低開発』」『世界経済』18巻1号、56-71頁
- 1973年2月（書評・動向）「J. バハリエル『イランの経済発展』；J. アムゼガルほか『イラン：二重経済的条件下における経済発展』」『世界経済』18巻2号、23-51頁
- 1974年5月（書評・動向）「A. アンゲロプーロス『富裕国に対峙する第三世界』」『世界経済』19巻5号、33-50頁
- 1975年6月（動向）「イギリス近世のインフレーション」『大阪学院大学通信』6巻4号
- 1975年8月（書評・動向）「ウィルキンソン著『進歩と貧困』」『世界経済』20巻8号
- 1977年1月、4月（書評論文）「A. D. ダイヤー『16世紀のウースター市』」をめぐって」『大阪学院大学商経論叢』2巻4号、63-73頁

- 1977年（書評）「ホスキンス著『略奪の時代』」『大阪学院大学商経論叢』3巻3号、83-86頁
- 1978年（解説）「経済史と人口：歴史人口学への招待」『大阪学院大学通信』9巻4号
- 1979年1月、4月（解説）「いわゆる工業の「都市退去」をめぐる（上）（下）」『大阪学院大学通信』10巻1号、4号
- 1981年11月（解説）「先市場社会における交易と市場」『大阪学院大学通信』16巻11号、79-93頁
- 1982年4月（資料）‘The Elizabethan Port Book of Newcastle upon Tyne’『大阪学院大学経済論集』1巻1号、119-40頁
- 1982年12月（解説）「時間、労働、時計—前工業化社会における」『大阪学院大学通信』12巻10号、74-69頁
- 1989年11月（書評）「坂巻清著『イギリス・ギルド崩壊史の研究』」『史学雑誌』98巻11号、103-111頁
- 1989年4月（動向）「クラフト・ギルド論—イギリスの最近の動向から」『大阪学院大学経済論集』3巻1号、181-204頁
- 1990年5月（解説）「歴史における家族—近世イギリスの経験から」『大阪学院大学通信』22巻5号、31-60頁
- 1990年5月（動向）「回顧と展望：イギリス中世」『史学雑誌』100巻5号、927-32頁
- 1992年9月（書評）「酒田利夫著『イギリス中世都市の研究』」『社会経済史学』58巻3号、389-91頁
- 1992年9月（書評）「比較都市史研究会編『都市と共同体』」『史学雑誌』101巻9号、107-17頁
- 1998年11月（書評）「A・ダイヤー著／酒田利夫訳『イギリス都市の盛衰：1400～1640年』」『史学雑誌』107巻11号、213頁
- 1999年3月（資料）「17世紀ロンドンの財政史料：City's Cash Accounts 1661/2」『早稲田社会科学研究』58号、237-62頁
- 1999年7月（書評）「A・L・バイアー著／佐藤清隆訳『浮浪者たちの世界：シェイクスピア時代の貧民問題』」『社会経済史学』65巻2号、225-27頁
- 2000年7月（書評）「唐澤達之著『イギリス近世都市の研究』」『社会経済史学』66巻2号、226-28頁
- 2004年3月（書評）「花田洋一郎『フランス中世都市制度と都市住民：シャンパーニュの都市プロヴァンを中心にして』」『歴史学研究』786号、54-57頁
- 2006年11月（書評）「D. キャナダイン編著平田雅博ほか訳『いま歴史とは何か』」『社会経済史学』72巻4号、516-18頁
- 2007年12月（書評）「藤井美男著『ブルゴーニュ国家とブリュッセル』」『西洋

史学論集（九州大学）』45号、113-18頁

2009年（書評）「米山秀著『近世イギリス家族史』』『社会経済史学』75巻3号、347-49頁

2010年12月（書評）「坂巻清著『イギリス毛織物工業の展開：産業革命への途』』『歴史学研究』874号、27-30頁

翻訳

1980年 K. ボランニー著『人間の経済〈2〉 交易・貨幣および市場の出現』（共訳）（岩波書店）

1981年 G. J. ポーカーほか著『転換期の東南アジア』（共訳）（日本ブリタニカ）

1991年4月 K. ライトソン著『イギリス社会史 1580-1680』（リプロポート）

1996年11月 R. B. オウスウェイト著『イギリスのインフレーション：テュダー・初期ステュアート期』（早稲田大学出版部）

2013年1月 R. キャメロン著『概説世界経済史1、2』（共訳）（東洋経済新報社）

科学研究費

1991年度「イギリス近世都市の市民生活に関する基礎研究：遺産目録・遺言書の数量的分析」一般研究（C）研究課題番号：03630053

1998年度～2001年度「王政復古期ロンドンの都市財政に関する研究」基盤研究（C）研究課題番号：10630083

2003年度～2004年度「近世ロンドンにおける移動と貧困：ウエストミンスター貧民尋問書の分析」基盤研究（C）研究課題番号：15530245

2006年度～2008年度「18世紀イギリス都市における市民的社交圏の形成：地域社会、消費文化、貧困」基盤研究（B）研究課題番号：18330075

2011年4月28日～2014年3月31日（予定）「近世ロンドンにおける役職制度と地域社会の変容」基盤研究（C）研究課題番号：23530420